

のみがわ

連絡先 郵便番号 146-0085

2005年 3月14日 発行
通算 第36号

大田区久が原4 - 19 - 24

発行 大坪 庄吾方

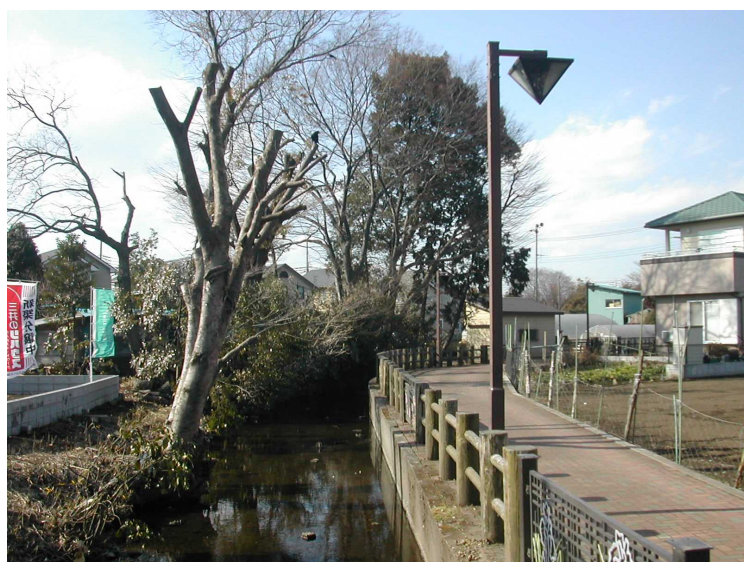
呑川の会 メール s.ootubo@nifty.com

会 HP <http://homepage3.nifty.com/nomi/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

今年のお花見ウォークに参加を

呑川の会恒例のお花見ウォーク。今年は立川市、国立市を流れる多摩川の支流の矢川としていましたが、次のとおりに決定しました。



このコースは JR でも「矢川緑道お手軽散歩」としてちらしなどを作り PR しているコースです。呑川とは全然ちがいますが、昔の春の小川といった面影を残しています。都内にまだこんなところが残っているのは奇跡でしょう。時は春、気持ちの良い季節ですので是非ご参加ください。

開催日時 4月3日(日) 10時~16時頃(定例会時間も含む)

集合時間・場所 10時 JR 南武線 谷保駅改札口

川崎 9時1分発 武蔵小杉発 9時12分 谷保着 9時48分
9時8分発 武蔵小杉発 9時20分 谷保着 9時56分

ルート 谷保駅 谷保天満宮 城山公園 古民家 くにたち郷土文化館
南養寺 ママ下湧水群 矢川緑地保全地域 アミュー立川 南武線西国立駅

歩行距離 約 6キロ

参加料 500円/人

弁当 持参ください。谷保駅前にセブン・エレブンはあります。

雨天の対応 小雨決行。微妙な場合は福井宛て(3729-8827)7時30分から8時までに連絡ください。

コースの見どころ

谷保天満宮 亀戸、湯島天神とならぶ関東3大天神のひとつ

- 城山公園 中世の屋敷跡が城山。緑豊かな敷地の中には小川が流れ、種々の植物、野鳥が生息
- 古民家 江戸後期の民家を移築、復元したもの 当時の農具も展示
くにたち郷土文化館 旧石器時代の石器、民具、冠婚葬祭の用具等を展示
国立の歴史、文化、民俗を知ることができる
- 南養寺 春はしだれざくらが咲き、華やか
- ママ下湧水群 ママ(崖)・青柳段丘下の緑地に沿って清らかな流れがとても良い。
- 矢川緑地保全地域 立川段丘の崖からの湧水を源流とする矢川の周りは木々が繁り、水草が繁茂する湿地帯。上流地域は都の保全地域に指定。

なおウォーキングの終了後、近くのアミュー立川(市民会館)第5会議室で呑川の会の4月度定例会を行いたいと思います。

呑川上流生き物歳時記 2005年1月・2月編

高橋 光夫

今冬の呑川上流のカモたちに異変が起きている。

工大橋から下って歩くと、まずオナガガモの数がグンと増えているのに気づく。昨年まではやって来てもたかだか数羽、めずらしくてよく見入った。

ところが今冬は工大橋～境橋の間だけでも16羽もいる。

長い尾羽がピンとしていて格好が良く、鉛色のくちばし、首にえぐれるように入る白い線はほれほれする。

加えてコガモも多い。

緑色の過眼線が美しい。

他のカモたちに比べ警戒心が強く、カメラを向けるとパッと飛び立つ。

同時にマガモも増えた。

ところがいつも多いカルガモが見あたらない。

オヤッと思いながら、下流へ足を進める。

島畑橋を過ぎてもマガモ・コガモ・オナガガモばかりで

カルガモは見あたらない。

ようやく石川台中学の前あたりでカルガモに出会う。



境橋付近のオナガガモ夫妻

どうしたのだろう。

オナガガモたちが増え、上流部ではカルガモは追い出されたのだろうか・・・

これら4種類のカモたちで、カルガモだけは留鳥で、この地域（関東付近）で季節によって移動するだけだ。

他はシベリアや北米と、呑川との間を広く移動する渡り鳥だ。

そんな違いが一緒にいるのを嫌がるのだろうか。

そういえばもう一つ今年は異変がある。

上流部に特に多い藻類の繁茂は、特に春になると目立つ。

今は少ない。

ところが工大橋～境橋の今冬の藻類繁茂は激しく、すでに藻類は水上に高く出て固まりをなしている。



境橋付近の藻類

春が近い。

すでに多くのカモたちはペアを作っている。

（他の鳥類と違って繁殖期になってからペアを作るのではなく、カモ類はその前の冬の間ペアを作ります。）

もうすぐ飛び立つときが近いようだ。

来年は果たしてどうなるだろうか・・・

石神井川ウォーキング

白石 琇朗

秋晴れの紅葉日和に、東上線中板橋駅の旧川越街道・下頭橋から旧中山道・板橋宿を通り、飛鳥山・音無親水公園の JR 王子駅までの快適な遊歩道約7キロを会員12人で散歩しました。

石神井川は小平市鈴木町・小金井カントリークラブを水源として、西東京市(旧田無市・保谷市)を横断し、全流域の約半分を占める練馬区で富士見池・三宝寺池の地下水を流入し、石神井池の脇を通り豊島園を横断して、護岸や河床からの湧水で流量が増え、板橋区に入ります。川の流れも屈曲したコンクリート河床となって、埼京線をくぐる所から北区に入り、昔の川の屈曲部を緑地公園として改修された場所を多く残しながら、王子駅の飛鳥山ずい道下から流れが緩やかな感潮域になり、隅田川に合流する全長25.2キロの一級河川です。

石神井川上流部の練馬区までは分流式下水道なので、洪水対策として大雨時に川の水位が固定堰より上昇すると調節池に流入し、水位が下がると石神井川に戻されるという自前の水が流れ、高度処理水の呑川とは違います。



下頭橋から両岸に快適な石畳の遊歩道が始まります。板橋区は自動車も入れるが通り抜けがないためか、あまり気になりません。北区は環境も良く、人と自転車しか通れない細い緑の散歩道です。川は水深（10~20cm）も浅くゆるい傾斜があるせいか、透き通りきれいな流れで、洪水対策で7m ~ 11m の垂直護岸となっているが水面は良く見えます。遊歩道のところどころにユスリカ対策の誘蛾灯やブロンズ彫刻が置かれ、隅田川からの距離数表示や石神井川の案内板があり、散策路の整備に力を入れているなど感じられる。

また 11 月からの湧水期に多様な生物が棲息できるような河川環境回復のため、河床改善の護床工事を向屋敷橋から中根橋まで大工事を行っていた。魚巣ブロックや湿生植物のブロック、カーブ地点には人工的な砂利の砂洲がところどころに見受けられ、生物の生息環境を良くしようという思いが感じとれた。



国道 17 号線の手前右岸に隣接する都営三田線のきれいな地下水を導入し、旧河川を生かした氷川釣堀公園が、また旧中仙道の趣のある板橋を渡った右岸の旧河川屈曲部を小さな流れ（井戸水・湧水）のある公園にして、それらの水を石神井川に流していた。このあたりから桜や柳などの緑も多くなり、両岸の護岸には紅葉した蔦が下がり、緑橋からは俳句が処々に掲げられ、旧陸軍工廠跡のレンガモニュメントがあったりして遊歩公園の雰囲気を醸し出している。鴨等の水鳥も多く見られ、川にはフナ・タナゴ・コイ・クチボソ・モツゴ・ヨシノボリ・アブラハヤ・ドジョウが居、昔はハヤ・ヤマベ・メダカ・ウナギ・ナマズもこの辺に居たそうです。

北区に入った右岸に千川上水（玉川上水の分水で流量 3000t/日）の流入口があり、この水辺で見られる鳥の彫像の前に立つと泣声が聞ける説明文が随所に置かれ、両岸に音無くぬぎ緑地・こぶし緑地・かつら緑地・けやき緑地・みずき緑地と随所に残し、渓谷を思わせる地形が続きます。



特に滝野川橋を過ぎた右岸の護岸を切り開いた入江を、緩傾斜にして階段で川面に降りられる音無もみじ緑地を平成6年に造り、増水時の魚や水鳥の避難場所にもなり親水公園として、釣や水鳥・魚が見られ皆に喜ばれています。また紅葉橋の先の右岸旧蛇行に吊橋や流れ（井戸水・湧水利用）を再現し、珍しい12～13万年前の下末吉海進東京層の湧水も見られる音無さくら緑地があります。このあたりの河床には旧東京湾の岩床が現れ、江戸時代に吉宗が滝野川の渓谷滝とモミジ・飛鳥山の桜の名勝地を広めた場所でもあり、自然が残されている。石神井川は鎌倉時代位には、ここから今の南北線沿いに不忍池に流れていたのが、真っ直ぐ隅田川に流れが変わったために、流れの速い滝ができ滝野川と言われるようになったという。明治時代には水を大量に使う王子製紙工場発祥地でもあり、昔は水量も豊かな川だったと思う。この川は両岸の遊歩道に地面を残し、透水性の歩道にしたりして岸のところどころから湧水の流れがあり、緑の樹木と共に呑川も学びたいと思った。最後に音無橋の手前から飛鳥山下を新たなずい道で水を流し、昭和36年にその旧河川跡を子供も楽しく遊べる音無親水公園となった、王子駅北口への連絡道になっているところで写真を写し解散しました。（ウォーキング実施日 平成16年11月13日）

神田川再生構想検討会の報告



高橋東大名誉教授を座長とし、生態学の鷲谷いづみ東大大学院教授等の学者、東京都建設局、下水道局、環境局および杉並区から中央区までの流域8区の関係者等が集り、神田川再生構想検討会が昨年2月設置され、その報告書が12月まとめられました。

いうまでもなく神田川は井の頭公園から まで東京の都心地区を流れ東京を代表する都市河川でしょう。そんな神田川について概ね 50 年を目標期間と定めた基本構想がまとめられたことは意義あることと思ひ、骨子をご紹介します。

基本理念 首都東京の顔にふさわしい、人・生きものが集い、親しめる、地域に活きた川に再生し、東京に魅力と活力を与える

基本的な考え方

1. 首都東京における浸水被害の防止

護岸及び下水道の整備により、概ね 3 年に 1 回発生する降雨 (50 mm/h) に対処する治水水準を達成するとともに、地下調節池等の整備及び雨水流出抑制施設の設置など、総合的な治水対策を推進することにより、概ね 15 年に 1 回発生する降雨(75 mm/h) に対する安全性の確保を目指すべきです。

2. 地域に活きた河畔まちづくり

川沿いを軸として定めるとともに、ブロックのあるべき姿を実現するため、最も効果を発揮する適地を拠点として、地域特性を生かした川づくりを目指すべきです。

として妙正寺川、善福寺川の支流を含め、全体を 8 区域に分け、それぞれ目指すべき方向を具体的に示しています。



例えば下流ブロックでは観光用の舟運ルートの復活、日本橋上に架かる高速道路の移設、上流ブロックでは水辺に降り、水遊びのできる川等。

3. アユの棲む多様な生態系を育む水の流れの確保

3・1 多様な生態系を育む流れの確保

自然の水循環系再生のため、浸透域の保全、雨水浸透の推進を図り、流域全体の地

下浸透量を増加させるとともに、河床を自然化し地下水を湧出し易くすることにより、湧水及び平時水量の増加を目指すべきです。

また人工的に水循環系を再生する取組みとして、下水再生水の導水、地下構造物からの滲出水の活用等を図り、平常時水量の不足する区間の水量確保に努める必要があります。

3・2 きれいな水の確保

自然河床にすることにより、砂利や植生を活用した河川の自浄機能を回復・強化させるとともに、下水道施設の対策により、晴天時、雨天時の水質改善を目指すべきです。

4. 生き物の棲み家の保全・再生

河床の自然化を図ることなどにより、魚類の洪水時の避難場所等となる淵や、生息場、餌場となる瀬を創出するとともに、水生植物等が生息しやすい河床環境の形成を目指すべきです。

なおこの報告書は東京都建設局河川部のホームページからもみることができます。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/river.html>

ここでは報告書内容だけでなく、「神田川の現状と課題」と報告書案に対して都民の意見募集をした結果（内容に対する賛否の人数、意見・提案等についての検討会の回答）も掲載しています。提案の中には報告書に取り入れられているのもありました。

昨年12月以降建設局のホームページがリニューアル・充実し、意見募集に対する扱いも丁寧になっているように思います。

久原フェスタを参観して

大坪庄吾

2月25日、久原小学校での総合学習を中心とした発表会「久が原フェスタ」の案内をいただいたので参観してきました。各学年の学習の成果を地域や父母に公開し、地域と学校が双方向に交流することをねらった催しです。全校舎の各場所で学年ごとの展示や発表が行われていました。福井さんや白石さんにも会いました。私は昨年秋、4年生の先生に頼まれて「呑川ってどんな川」というテーマでの話しをしてきたので、そのことがどう生かされているかも見たいと思ったからです。

4年生は、呑川についてそれぞれの関心に依じていくつかのグループに別れ、総合学習の時間を使って調査し伝えたいと思うことを発表するのです。呑川については上流から下流まで行って調査した経験も生かされていました。オープンスペースという広いフロアがあり、二ヶ所で交代に発表していました。全校の子どもがそれぞれのテーマで発表するので、空いた時間に発表を見に来ていました。



「呑川の生き物」「住みやすい環境」「呑川の昔」「呑川地図カルタ」「ゴミのない呑川」「呑川トリビア」などのグループごとに1班10分程度の発表をします。「呑川の昔」については、絵に書いたり、クイズ形式にして参観者も参加しての発表でした。発表が終わるとパンフレットをくれます。呑川の歴史を子どもなりによくまとめたパンフレットでした。「ゴミ」のことを発表したグループは呑川にいる魚の立場からゴミを捨てる人などについてを表現した劇の発表でした。「呑川カルタ」も学習したことを短いことばで表現し見学の子どもが競っ

てカルタ取りをしていました。

フロアの中に展示のスペースがあり、「呑川ウォーキング」のグループは「呑川マップを作成し、上流・中流・下流ごとの生き物、流れの速さ、においまで紹介していました。歩いて作った作品として多様な情報がもりこまれた展示になっていました。また呑川ポスター標語コンクールと題した展示もありました。「わたしたちで きれいにしよう 呑川を」とか「未来へと きれいに残せ 呑川を」など呑川のゴミをなくそうという子どもたちの願いが出ていました。4年生では廃油から石けんをつくる発表もされていました。

いま、学力低下のキャンペーンがなされ、せっかく歩き始めた総合学習のせいにしてこれを無くしたり、他の形に変えようとする動きがあります。子どもたちが一つのテーマで時間をかけて取り組めば呑川ばかりでなく多摩川でも、地域にたくさんのテーマがあります。子どもたちが一定の指導のもとでとりくめば、すばらしい成長をすることがよくわかりました。久原小学校が地域と結んでした呑川学習や他のとりくみをしていったことがよくわかる催しになっていて嬉しくなりました。呑川の会もさまざまな形で応援していきたいなと思います。

呑川のユスリカ

暖かくなると、春のユスリカの季節を迎えます。遅くなりましたが、大田区生活衛生課が作成した平成 15 年度のユスリカの概要報告を入手しましたので、報告します。

まず平成 15 年度実施した調査はつぎのとおりです。

ハエ取り紙調査 石川橋、島畑橋、島本橋、山下橋、雪の橋、水神橋、雪谷境橋、長栄橋に年間 15 回、それぞれ 1 週間ハエ取り紙を置き、それに付着したハエのカウント
目視調査 石川境橋から池上橋までの全ての橋で年間 12 回ユスリカの発生状況を
目視で 5 段階に評価。

藻及び幼虫調査 島畑橋、雪の橋、長栄橋で年 4 回 川の中央部と水際部で一定面積の藻を掻き取り、その中の藻の重量とユスリカ数を計測。

1 年だけの調査では、まだ傾向等を判断する段階ではないと思いますが、16 年度も継続して実施しているとのことで、何年後かにはユスリカ対策に有効な調査結果がでることを期待します。

一方、区民からのユスリカに対する苦情は平成 12 年度は 15 件と多かったが、それから減少し 14 年度は 1 件までになった。しかし 15 年度は 6 件、今年度は 10 件前後とまた増加し、苦情の範囲も池上橋の下流まで広がっているのが最近の特徴とのこと。

区も河床清掃による藻の抑制、捕虫網による捕獲等の対策は実施しているが、やはり長期的な対策としては、呑川の環境を魚等の捕食者が棲める環境にすること、あるいはユスリカ幼虫の生息場所となる藻を異常に繁茂させる原因となる呑川に流入されている下水処理水の窒素分の減少対策の推進とともに、一方では区民の側にもある程度のユスリカの生息を容認することも必要ではないかと思う。

編集

福 井 甫